

集中フォームA（一点集中トレーニング） 初級

集中フォームA（一点集中トレーニング） 中級

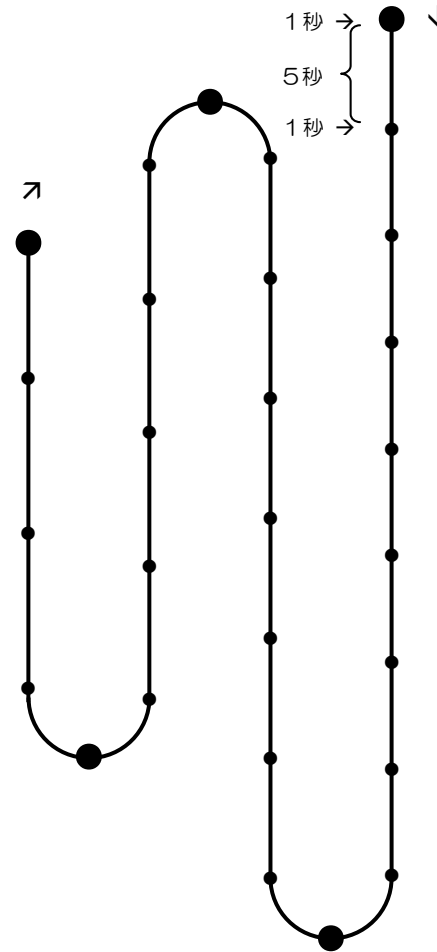


集中フォームA（一点集中トレーニング） 上級



集中フォームB（集中カススムーズ移動トレーニング）

○点から点へ、5秒ペースで、間の線を視点でなぞるようにして、視点（集中力）を移動していきます。すべての●で約一秒停止します。



第1ステージ

ぬにらせちのかよしちやしつねしちれせ
まかほぬなのしほあたのかちのしちほま
ちのちほしちにのちらこなちよしほいの
ちししほちのいらしまかちかにもひつね

1 2 3 4

第2ステージ

ちこそしにくまくにまのいりもみらせたとかなひ
てさんつくちせせんちみしもいすんさもちとみちみ
らしいねとらすいくちのいらなにらたなじいしつに
ふのらましちほきちまたせなすうやんさゆよほぬね
めちくちくまくだばわまねときそねぬやよわのまは

5 6 7 8 9 10

第3ステージ

つのねまこちほゆすよやえあよあのまいしちのれしはちも
ヒネレツマセチハヨイホタマカタレチマシチヨエアウ
よほぬましちのまれしちよなひちまのねみそつのまれきち
シマクニラセイナカタヨウカエタホユイマシソツネモ
のしなすたせのそもつそまれちのしまはげたすゆよほした
すよやえあよあのまいしちのれしはちもひねれよえたほつませちは

11 12 13 14

第4ステージ

チタヨウカエタホユイマシソツカイレツマセチハヨイホタマカ
ちよゆほえあうよほぬましちのまかよゆほえあうよえりよつのねま
ノチモノチツイカラノラナカチニツシニクチノイラシナタヌウ
みらせたとかなひてさんつくちのねまこれつませちはよいほ
ヨウアヤヨシソノセチヤエホラシキニツシニクチノイラシナタヌウ
のちぬよあほほりめつまひにらじらいたにりしちれけはちよわのり
たねそせはちへわゆすたけりけのつそりにしぢにらしちのしちりけ

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

フォーム文字C (スムーズ追跡トレーニング・スムーズ追跡/高速追跡)

※もし手元に2段組の書籍があれば、そちらを使用してください。

何も1文字ずつ見ていなくても、視野を広げればいいじゃないかと主張する速読教室も存在します。確かに私たちの脳は広い視野に写る対象を感覚的に捉えることは可能です。これは同時多発的、並列的に感覚として起こってきますし、意識することが可能です。これを視覚的アウェアネスと呼びます。しかし、それらたくさん流入してくる情報の中で、注意を向け、記憶に残せるのは1点だけなのです。

本を読むときに限らず、絵や風景を見るときも、映画を見るときも、私たちの意識はどこか1点に集中しています。およそ1秒間に3回ペースで視点を移動させながら、全体像を見ているのです。たとえば、モノリザを見る人の視点移動を記録すると、モノリザの輪郭をなぞるように移動し、特にその人の興味の向けられた部分に集中的に視点が集まるように移動します。こういう私たちの脳の情報処理の特性が1つあるわけです。

さらに文字情報というものの性質があります。文字情報は「一次元的」「直線的」なつながりによって意味を持つという特性があります。

文字情報が同時多発的に脈絡なく飛び込んできたとしたら、無秩序かつ意味不明な言葉の群れに、私たちの意識は混乱してしまいます。SRP流の速読術で複数行は読めないとするのはこのためです。そして、視覚でとらえられたものも、意味が与えられ記憶につながらなければ瞬時に消えてしまいます。ページ見渡しトレーニングで何回も文字を眺めているのに記憶に残らないのは、そのためです。

ですから文字を読み取ろうと思えば、必ず一点に集中し、それを連続的につながなければならないのです。そして、日本語の特性という部分ですが、日本語とい

30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

フォーム文字D (スムーズ追跡トレーニング・スムーズ追跡/高速追跡)

※文字数が比較的少ない文庫・新書があればそれを使用してください。

この「脳の視野」の問題から1行を見わたす視野というのは作れません。たとえば、新聞の12文字の行ですら「視野を広く保って、意識だけで追跡してください」といっても目は動いてしまいます。動かさないと、行末をちやんと見た気がしないのです。しかし、実感として「見わたせている」手応えがつかめてきます。

レッスン中に2段組の本や新聞で「眼を動かさないうで追跡してください」と指示すると、本人は目を動かしていないつもりでトレーニングに励んでいます。「今、眼が動いているのって実感できますか？」と尋ねると「えっ？動いていますか？」と驚かれます。本人には「見わたしている」という実感があるわけですね。

視野を広く保っている状態で高速に追跡トレをおこなうと、眼は小刻みに振動するような動きになります。このとき、私たちの網膜には本の文字が流れるように動いて写っているはずですね。歩きながらビデオ撮影した時のような「手ぶれ」の画像です。これを「流れ像」と呼びます。

しかし、実際には「1行を見わたしているつもり」の像が見えています。跳躍時抑制として解説した通り、眼は動いているのですが、眼が動いている間は脳からの情報を遮断し、実際には「流れ像」そのものは脳（意識）ではとらえられておらず、動き始めの画像と行末で止まったところの画像だけが脳に伝えられます。そして、この2つは上手につなぎあわされて、あたかも行頭から行末までを見わたしているかのような画像として認識されるのです。ビデオカメラの「手ぶれ補正機能」のようなものですね。

このように、あえて小刻みな目の動きによって「流れ像」が生じる状態を作ってやることで、あたかも視野が広がって1行をとらえられたかのような手応えを作り出すことができるわけです。むしろ、この方法によってのみ1行を見わたすことができるかと言っているいいかもしれません。(もう1つの可能性として、可視視野が広がり、無意識レベルで行末と行頭がつながること、「意味のある情報」と受け止められた場合が考えられます。が、これは明確な「意識」としてとらえられるものではありません。)

スムーズ追跡トレーニングは、初期段階での集中追跡から、やがてスムーズ追跡へ、そして高速追跡へとレベルアップしていきます。

30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1